

## 葉月の間、花火のように、すぐ終わる

カレン・アンユンハン  
シンガポール国立大学]  
July 31 - August 10, 2017

このサマープログラムに参加して、本当によかったです。私は京都大学で勉強するという夢を叶えただけでなく、京都という歴史的・文化的に豊かな都市を巡ることができました。私は日本に来たのが今回8回目です。それでも、色々な新しい経験や驚くことができました。例えば、和菓子作りの体験、観光スポットの本当の歴史を知るといこと、そして、台風のせいで何処にも行けないということなどです。シンガポールは自然災害がほとんどない国です。しかし、今回の台風を経験して、重要なことに気づきました。それはほとんどの人が色々なことを知識的に知っていますが、実際に実感していないということです。そして、日本のことについて勉強すればするほど、知らないことが多く見つかるということに気づきました。

このプログラムで受けた授業は全て面白かったです。たくさん新しい知識を得ることができ、よかったと思います。私は日本文学を専攻しているので、湯川先生の文学の授業が特に有益でした。この授業から、昔の人々が自然に敏感であったことを理解することができました。例えば、月の名前は日によって違いということなどです。授業ではさらに俳句を導入してもらったので、私は今俳句に興味を持っています。できれば、俳句も研究しようと思っています。

この二週間は忙しくしていましたが、楽しかったです。京都大学は学問の自由を奨励していて、活気のある学校文化を持っている大学です。全体的に見ると、京都大学は多様な学習環境を提供するだけでなく、多様な授業を提供し、留学生が日本語能力を習得することを重視しています。このプログラムに参加し、日本に対する評価が上がりました。そして、日本についての学習経験が大いに豊かになりました。プログラムの時期は夏休み中でしたが、京大生たちは非常に活発で、学校活動に忙しくしていました。

京都大学の先生と学生はとても優しいと思いました。大半の学生たちは京都で生まれていませんが、京都のことを何でも知っていました。さらに、日本人学生との交流以外にも、他のASEANの学生と交流することができて、異なる文化に対する理解を深めました。このプログラムは橋のように様々な国の人を繋げています。

このプログラムのおかげで歴史と文学の研究への関心を深めることができました。修士を修了した後、私は京都大学に留学しようと考えています。将来、私は近世文学の研究者になりたいと考えています。もし研究者にならなかつたら、日本で就職したいとも思っています。このプログラムのおかげで、日本がもっと好きになったからです。近いうちにきっと京都に戻って来ます。

あらためて時間の早さを実感しました。この二週間は花火のようで、楽しいのに瞬間的に終わってしまいました。寂しいですが、やはり「逢うは別れの初め」です。最後に、以下の俳句で私の感想を表現し、締めくくりたいと思います。「葉月の間、花火のように、すぐ終わる」。